

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：奥村 康博

事業名 一般国道115号 東北中央自動車道（相馬～福島） <small>りょうぜん ふくしま</small> 霊山～福島	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 東北地方整備局					
起終点 自：福島県伊達市霊山町下小国 <small>だて りょうぜんまちしもおぐに</small> 至：福島県伊達郡桑折町大字松原 <small>だて さいりまち まつばら</small>	延長 12.2 km						
事業概要 一般国道115号東北中央自動車道（相馬～福島）は、東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとして福島県相馬市から伊達郡桑折町に至る延長約4.5kmの復興支援道路である。 霊山～福島は、東北中央自動車道の一部を形成し、伊達市霊山町下小国から伊達郡桑折町大字松原に至る延長12.2km、2車線の自動車専用道路である。							
H25年度事業化		H24年度都市計画決定					
H26年度用地着手		H26年度工事着手					
全体事業費 約96.8億円	事業進捗率 約69% <small>（平成31年3月末時点）</small>	供用済延長 -km					
計画交通量 12,700台/日							
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C （事業全体） 0.9（0.8） （残事業） 2.4（2.4） </td> <td style="text-align: center;"> 総費用 （残事業）/（事業全体） 330億円/2,368億円 〔 事業費：285億円/2,194億円 〕 〔 維持管理費：45億円/174億円 〕 </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 （残事業）/（事業全体） 788億円/2,200億円 〔 走行時間短縮便益：674億円/1,885億円 〕 〔 走行経費減少便益：90億円/257億円 〕 〔 交通事故減少便益：24億円/58億円 〕 </td> <td style="text-align: center;"> 基準年 令和元年 </td> </tr> </table>	B/C （事業全体） 0.9（0.8） （残事業） 2.4（2.4）	総費用 （残事業）/（事業全体） 330億円/2,368億円 〔 事業費：285億円/2,194億円 〕 〔 維持管理費：45億円/174億円 〕	総便益 （残事業）/（事業全体） 788億円/2,200億円 〔 走行時間短縮便益：674億円/1,885億円 〕 〔 走行経費減少便益：90億円/257億円 〕 〔 交通事故減少便益：24億円/58億円 〕	基準年 令和元年		
B/C （事業全体） 0.9（0.8） （残事業） 2.4（2.4）	総費用 （残事業）/（事業全体） 330億円/2,368億円 〔 事業費：285億円/2,194億円 〕 〔 維持管理費：45億円/174億円 〕	総便益 （残事業）/（事業全体） 788億円/2,200億円 〔 走行時間短縮便益：674億円/1,885億円 〕 〔 走行経費減少便益：90億円/257億円 〕 〔 交通事故減少便益：24億円/58億円 〕	基準年 令和元年				
感度分析の結果 【事業全体】 交通量：B/C=0.8～1.04（交通量 ±10%） 事業費：B/C=0.9～0.9（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=0.9（事業期間+1年） 【残事業】 B/C=1.9～2.9（交通量 ±10%） B/C=2.2～2.6（事業費 ±10%） B/C=2.3（事業期間+1年）							
事業の効果等 ①防災対策 ・現道の特殊通行規制区間などの通行止めリスクを解消し安全・安心な道路交通を確保 ②物流効率化 ・相馬市から県内主要都市へのアクセス性が向上し進出企業の効率的な輸送を支援 ③高次医療機関への救急搬送支援 ・相馬市から福島県立医科大学付属病院へのアクセスが向上する（整備前84分→整備後59分） ④観光振興 ・ふくしま観光圏を形成する都市間アクセスの向上（現況78分→整備後53分） ⑤時間信頼性向上 ・所要時間のばらつきを考慮した余裕時間の短縮（15分→8分） ⑥産業支援 ・震災以降の新設企業10社のうち、5社が相馬～福島の利用を意識して新設 ・沿線地域での新たな産業拠点の計画・整備が進み物流交通等の増加が見込まれる ⑦観光支援 ・相馬～福島の地域間の交流人口が増加し、新たな観光・交流拠点の場を形成（平休比1.26） ⑧医療支援 ・全線開通による高次医療機関へのアクセスが向上することにより救命率向上（心筋梗塞：0%→21%） ⑨利活用 ・福島県北地域～仙台空港エリアを行き来する車両の115号、相馬～福島経由の選択が増加（4%→11%）							
関係する地方公共団体等の意見 ○福島県知事の意見 国の対応方針（原案）については、異議ありません。これまで、被災地と内陸部の連携が強化され、物流や観光などによる地域活性化が図られており、東日本大震災からの復興の大きな活力となっています。さらに本事業の完成により災害時の広域的な避難や救急医療へのアクセス、緊急物資等の輸送を可能にする災害に強い交通体系の確保にも寄与するため、早期の完成に努めてください。また、県の費用負担に対する全面的な財政支援と事業が完了するまでの安定した予算の確保をお願いします。 ○以下の団体等から、「東北中央自動車道 相馬～福島整備促進について」要望あり ・福島県知事 ・伊達市長 ・桑折町長 ・福島県東北中央自動車道建設促進期成同盟会（福島県知事）							

- ・一般国道115号整備促進期成同盟会（福島市長） ・福島県道路整備促進協議会（相馬市長）
- ・福島市、米沢市、相馬市、伊達市議会連絡協議会（伊達市議会議長）
- ・福島商工会議所、相馬商工会議所、米沢商工会議所 ・福島県道路利用者会議（自動車会議所）

事業評価監視委員会の意見

対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない
- ・阿武隈東道路 延長10.5kmが平成29年3月に開通
- ・阿武隈東～阿武隈 延長5.0kmが平成30年3月に開通
- ・霊山道路 延長12.0kmが平成30年3月に開通
- ・相馬西道路 延長6.0kmが令和元年12月に開通
- ・常磐自動車道「ならはSIC」、「大熊IC」が平成31年3月に開通
- ・東北中央自動車道 南陽高畠IC～山形上山IC間が平成31年4月に開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

・平成25年度に事業化し、事業進捗率約69% うち用地進捗率100%

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・事業の進捗に係る問題はない
- ・令和2年度夏頃まで（仮）国道4号IC～桑折JCT 延長2.0km 開通予定
- ・令和2年度内 霊山IC～（仮）国道4号IC 延長10.2km 開通予定

施設の構造や工法の変更等

立入防止柵の配置計画を見直すことによりコスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

高規格ネットワークの形成による復興支援を図るとともに、現道の線形不良箇所等の隘路解消による信頼性の確保等のため、早期整備の必要性が高い

事業概要図



※ 費用便益分析結果における（ ）は、事業化区間のうちIC間の費用対効果分析結果を示す。
 ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。